

環境記者活躍中

2月7日(土)、第8回環境記者情報交換会が7名の環境記者の出席のもとで行われました。

34年間京浜運河に生息する生きものを観察している青野さん。運河の環境は外海からの流れ込みが影響している。現在運河では護岸工事が行われているが、生きものの酸欠が心配。

布川さん宅や隣家にある庭には緑が多少あり、去年は隣家の柿(甘柿)の木が豊作で、一部は鳥のために残しておいてあると言う布川さん。冬はあまり餌がない時期だが、鳥たちはその柿をついばみに来ていた。

品川にも風力発電の利用を考えたらと語る覚張さん。歩くことは健康にも良いが、自然の発見や思いがけない出会いもある。体力が続く限りウォーキングを続けたい。

環境に関することや小中学生と接することのボランティアに関わっている勝山さん。本年5月24日(日)予定のしながわECOフェスティバルは、いろんな企業や学生が環境について発表する場、触れ合う場であり、参加しましょう。



体育指導委員でもある石毛さん。地元では商店会長をしており、地元での環境について一言。街路灯の下にプランターを置き花を植えている。街並みをキレイにするということと同時に、大型のトラックが街路灯を壊すことを避けるためでもある。

地域でのボランティアを通じて環境を見てゆきたいという真壁さん。国道(第一京浜)の沿道をきれいにしようと、南大井二丁目の六棟のマンションの住民が環境整備活動(歩道花壇作り等)を行っている。



第8回 環境記者 情報交換会



真壁さんとともにエコサポーターでもあり、エコフェスティバルには毎年参加している白石さん。



街でも最低3回は歩かなければいけない。また街を知るためには歴史や地形を知ること大切で、自ずと注目するところも違って来る。また記事を書くに当たってのアドバイスをいただきました。まずは歩くこと、その中から自分のテーマが見つかる。商店建築、路地の井戸やごみ箱、張り紙な

どからも時代と人々の暮らしぶりが見えてきます。どんなささいなことでもいいですから、自分なりのテーマを見つけてください。そして気になることがあったらその観察を続けることです。しばらく続けて積み重ねていくと、だんだんとそのものが持つ意味とか価値が見えてくるものです。

品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

古布でこいのぼりを作ろう(一般)
不用の帯や着物などを利用して、かわいい「こいのぼり」を作ります
日時/4月24日(金)14時~16時

さき布から「ぞうり」を作ろう(中学生以上)
家庭にあるさき布を使って、オリジナル「ぞうり」を作ります
日時/5月5,6日(祝)14時~16時30分

燃料電池でプロペラを回そう(小学生)
太陽光と燃料電池を使ってプロペラを回します
日時/5月17日(日)14時~16時

シロクマと地球温暖化(一般)
地球温暖化がかわいいうまくまの生存を脅かしている状況をかわりを通して見ます
日時/5月31日(日)14時~16時

品川にいる海の生きもの(親子)
日時/6月7日(日)10時~12時
場所/しながわ水族館

自然環境と街づくり(一般)
日時/6月14日(日)14時~16時

身近な自然観察入門(一般)
日時/6月16日(火)14時~16時

ワンダーボックス万華鏡(小学生)
日時/6月28日(日)14時~16時

「場所」の記載のない講座は、すべて環境情報活動センターで開催予定。講座はいずれも予定、名称は仮称です。応募方法等については「広報しながわ」、品川区環境情報活動センターのホームページにて後日掲載します。

しながわECOだより2008年度Vol.4

発行: 品川区環境清掃事業部
編集: 特定非営利活動法人 エコタウンしながわ
発行日: 平成21年3月30日
住所: 〒140-8715 品川区広町2-1-36 品川区環境情報活動センター内
TEL/FAX: 03-5742-6533
E-mail: center@shinagawa-eco.jp
HP: http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう



品川区環境情報活動センターだより

2008年度 Vol.4

しながわ環境大賞決定

平成21年2月14日(土) きゅりあん小ホール

しながわ環境大賞の授賞式が、2月14日(土)きゅりあん小ホールで行われました。しながわ環境大賞は平成18年度に品川区によって創設され、環境保全に関する活動について、他の模範となる団体や個人に対して贈られるものです。今年が3回目で、受賞者は昨年10~11月に公募した23の団体等から選考委員会を経て決定されました。



環境大賞の活動をご紹介します

モトローラ株式会社



同社ではグローバルサービスデーを設定し、45カ国で一緒に環境維持に関するボランティア活動を行っています。大崎のシンクパークタワーにある東京本社では大崎駅周辺と小山台林試の森公園の清掃美化活動を行いました。活動目的は品川区の美化への貢献と昨年の6月に認定された品川区エコクリーン事業所としての責任を果たすことです。活動には社長以下63名が参加し、「ごみの多さに気づいた」「良い気分転換になった」等の感想がありました。また大崎西口公園に花壇をつくり、地域貢献をしています。草とりや水遣りだけではなく公園の清掃やフラワー日誌を書いて情報の交換も行っています。

浅間台ダディズクラブ



同クラブは浅間台小学校の保護者、同窓生、地域住民により構成されており、平成17年にピオトブを作りました。ピオトブは設計から始め、児童と一緒に土を掘ります。途中では機械を導入して着実に進めることができましたが、水道管に穴を空けてしまうハプニングもありました。苦戦しながらも、地域の方の協力も得て、花壇が綺麗なピオトブへと生まれかわることができました。ヤゴ救出大作戦は、小学校のプール開きによってプールにいるヤゴが全滅するのを助け出す活動です。救出した後、児童に育て方のレクチャーをしました。また20年度には、新たに児童と一緒に体育館裏を畑に開墾し、野菜を育てました。

松本真理愛とその家族



小学校6年生の松本真理愛さん。しながわ版家庭ISOを区内でただ一人6年間続けています。これはご両親が真理愛さんに、地球環境に意識を向けて生きるのが当たり前と思える人に育ってほしいという願いからはじめたものでした。電気をこまめに消す等、家族で話し合いながらエコ活動をしました。エコ活動は無理をしないのが続けられるコツ!ですね。「友達は受験勉強を夜中までしていたのですが、私は電気を使わないためにも夜は早めに寝ました。でも合格できたのでエコと受験は両立できると思います。良い環境をつくりたいと思う人が増えればきっと環境もよくなると思います」とのことでした。

環境賞

旗三新和会(みどりと花のボランティア)、小山台1丁目町会(資源リサイクル活動)、東品川児童センター・北品川児童センター(「かっぱこまつり」のエコ・リサイクルコーナー、打ち水大作戦など)、二葉保育園(環境教育)、荏原保育園(5歳児卒園製作「リサイクル和太鼓」作りなど)、清水台小学校(アルミニウム缶のリサイクル)の6団体が受賞しました。

環境学習講座

発光ダイオードを使った光と色のふしぎ探検

3月1日(日)環境学習講座「発光ダイオードを使った光と色のふしぎ探検」(講師:おもしろ!ふしぎ?実験隊 久保利加子氏)が環境情報活動センターで開催されました。テレビの画面は赤・青・緑の3色の光でできており、この3色の光の明るさを少しずつ変化させることでさまざまな色の光を作り出しています。



発光ダイオード(LED)は小さな電球のようなもので、それにLED電池を取り付けると鮮やかに光り、紙コップに入れるとまるで「光のジュース」になります。



赤のコップに青のLEDを入れるとマゼンタ(ピンク)になります。このようにしていろいろな光を作ることができます。

つづいているんな色の影を作ります。A4の白い紙にLED、鉛筆をそれぞれ右写真のように置き、紙のスクリーンに映る影の色を観察します。鉛筆とLEDの位置を変えるたびにいろいろな色の影が現れます。



白熱電球や蛍光灯に代わって将来の明りとして期待されているLEDですが、消費電力が少なく寿命が長いので、私たちの身近では交通信号機などに使われるようになってきています。

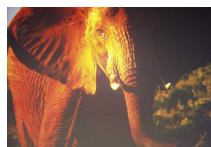
タイトル通りのふしぎな探検ができ、参加してくれたみなさんが良い体験をお持ち帰りいただいたと思います。

世界の辺境地で考える「地球といのち」2月26日(木) / 講師:フォトジャーナリスト 桃井和馬氏 (品川センター)

講師はこれまでに世界の約140カ国を取材で訪れており、そこで見た戦争や飢餓、貧困と環境問題は深い関係にあると考えました。この講座では取材で撮影した写真を品川シアターのビッグスクリーンで見ながら、ジャーナリストの視点から世界の辺境地での環境問題についてお話いただきました。



地上最大の哺乳類であるアフリカ象は大量の植物を食べ、フンを撒き散らしながら移動しています。フンの中には消化されない植物の種がたくさん混じっており、植物は象に食べられることであるんな場所に子孫を残すことができるのです。自然界に存在する動植物は、お互いかわりをもった循環の中で生き



ています。しかし私たち人間は自然界でどんな貢献をしているのでしょうか。人間が引き起こしている地球温暖化や自然破壊が、その循環を崩しつつあります。今私たちがしなくてはならないこと、それは自然を見つめなおし、生き物の生命を守ることでないでしょうか。ジャーナリストならではの切り口から環境問題についてお話いただきました。

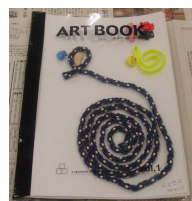
世界で一冊のアート本 2月13日(金) / 講師:アートディレクター 竹中信子氏 (環境情報活動センター)

アート本とは、使わなくなったものを好きなように貼って、カラージュ作品を作り、まとめて本にするものです。家庭で出る不用品(ボタン・布・毛糸・ビーズ・ひも・雑誌の切り抜きなど)を使ってA4の大きさの紙に材料を貼り付け、



カラージュ作品を作ります。できあがると絵画のようになります。テーマはあってもなくても良く、意味のあるものでもないものでも良い、自由な表現で作品を作ります。できた作品をスキャナーで読み取り、パソコンに取り込んで、プリンターからカラー

で印刷します。自分の作品を表紙にし、印刷した出席者の作品を好きな順にまとめて冊子を作ります。全部あわせてホチキスで綴じ、製本テープをまきまます。これでアート本の完成です。



ベランダで楽しむガーデニング

3月7日(土)環境学習講座「ベランダで楽しむガーデニング」(講師:千葉市花の美術館館長 斉藤久芳氏、同花卉園芸係 菅原由紀氏)が環境情報活動センターで開催されました。200名近い応募者の中から選ばれた30名のみなさまは大変幸運な方々です。



斉藤講師から、ガーデニングの楽しみと環境についてレジュメに沿って詳しくお話いただき、菅原講師からは実際に「千葉市花の美術館」で行われている寄せ植えのスライドを見ながら

「コンテナ寄せ植え」のポイントについて話がありました。続いて参加者のみなさんは本日の花6種類、8鉢を組み合わせる寄せ植えに取り掛かりました。丈の高い「ナンキョク」や「リリアグツ」を中心にすえ、丈の低い鉢「デージー」「ワスレグサ」などの色を考え植え込みます。実技だけでなくガーデニングの歴史、環境について話があった今回の講座は、大変参考になったと好評でした。草花の好みは時代により変化があり、1983年と2007年の調査を比較すると、ひまわりはランク外から5位へ、反対に菊は3位から14位になっているそうです。しかし桜はどちらも1位で、まさに日本人好みの花と言えます。

ガーデニングに興味を持っている方が、年齢・男女を問わず大変多いことを感じた講座でした。



しながわにも春がやってきました

<しながわ花海道>

しながわ花海道にも春が訪れました。昨年11月に蒔いた菜の花の種から花が咲きました。咲き具合にはかなりのばらつきがありますが、今年も勝島運河護岸一帯を菜の花が埋め尽くしてくれます。



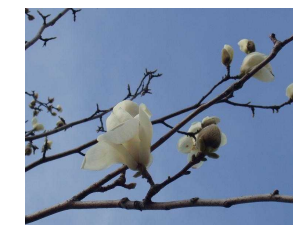
今年は油の採れる菜の花の種をまき、6月頃には油を採取することになっています。油を使ったおいしい料理も楽しみです。(撮影:3月10日)

<しながわ中央公園>

区役所前のしながわ中央公園における春の訪れをご紹介します。三寒四温のこの時期、花も咲こうかどうしようか迷っているようですが、サンシュユとハクモクレンが私たちを迎えてくれました。早春の光を浴びた黄色く輝くサンシュユは小さな花をたくさんつけています。



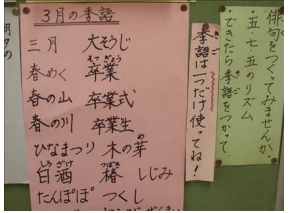
一方、白い清楚なハクモクレンは、ふっくらと厚みのある花びらが上を向いて咲いており、春の温かみを感じさせてくれます。



どちらも漢方薬としても利用されており、春を代表する花木です。近くの公園に親子で出かけ、季節の自然と触れ合うことも楽しいと思います。(撮影:3月11日)

「俳句」を通して季節を感じる心を養おう! ~大原小学校~

季節感と自然を読み込む俳句を楽しむことは、まわりの環境に目を向け、それを意識することにつながります。当センターのホームページに毎月掲載している「しながわ子どもの俳句」について、品川区内の大原小学校を訪ね、話を伺いました。



大原小学校では、初めて俳句にふれた小学1年生から、授業で習う5・6年生まで、自由に俳句を詠んでいます。

毎月校長室の掲示板にその月の「季語」(3月は「卒業」「ひなまつり」など)が張り出されると、子どもたちは俳句を作ってポストに入れます。校長先生が翌月それらをまとめて審査し、その後「金・銀・銅」の賞とともに、投稿した全員の俳句がすてきな短冊になって、壁に張り出されます。その月が終わると、各月にふさわしいデザインをほどこした掲示板(1月は羽子板、10月は紅葉など)に1年間の「金・銀・銅」賞の作品が掲示され、1年後にそれぞれの児童に渡されます。



俳句の投稿用紙はもちろん「裏紙」を使用しています。自然に子どもたちにも環境に配慮する考えが身につくのではないのでしょうか。



品川区環境情報活動センターを利用しませんか

当センターは、子どもを含め区民や事業者など、多くの方がライフスタイルを考えたり、環境にやさしい生活などの情報を得られるスペースです。みなさまが環境についての情報収集や情報交換をしていただくために、自由にご利用いただけます。

利用時間: 9:00~17:00、土日祝も利用できます。(12:00~13:00、および年末年始を除く) なお、詳細は当センターまでお問い合わせください。(電話番号03-5742-6533)

センターのご利用について

環境に関する活動をする団体もしくは個人どなたでも無料でご利用いただけます。セミナールーム(会議室)の他、数人の方でご利用いただけるミーティングコーナー、環境に関する書籍・雑誌等を備えた資料コーナーがあります。セミナールームの予約については当センター窓口、あるいは下記ホームページで受け付けています。(http://shinagawa-eco.jp/)

